

「長浜市歴史文化基本構想（案）」パブリックコメントにおける意見等への回答

No.	該当箇所		意見等	理由・根拠等	回答
	ページ数	原案の文章			
1	第3章・34ページ	歴史文化資産の保存活用の基本目標を「地域の光を未来につなぐ歴史文化都市・長浜」とする。	歴史文化を、「光」とのみ表現するのは不十分、あるいは不適切ではないか。	「文化」とは「人間生活を高めてゆく上の新しい価値を生み出してゆくもの」であるから。また、「光」があれば、必ず「陰」があるはずであるから。	本構想案では、古くから人々の生活や風土との関わりにおいて生み出され、現在まで多くの方々の不断の努力により守り伝えられた貴重な文化財を「光」と表現しています。さらに、これらの文化財＝「光」を確実に後世へ受け継いでいく考え方や方策について取りまとめています。したがって、本構想案での「光」とは地域の文化財を指し、通常の「光」の用い方とは違いますのでご理解ください。
			さらに、「つなぐ」のみの表現も不十分ではないか。	人間の教育なくしては、「つなぐ」ことはできないから。	「つなぐ」という言葉も、後世へ確実に受け継いでいくという意味で使っており、「確実な伝承」という意味を含んで使用しています。
2	第3章・34ページ	同上	考え方の最初から、現状認識なしに「基本目標」が設定されるのは、構想として不十分である。	目標を設定するためには、現状の問題点・課題を洗い出す必要があるから。	本構想案の第2章の第2項「長浜市の歴史文化資産」・第3項の「歴史文化に配慮したまちづくりの現状」として、現状についての分析があります。ただ、目標の設定のための問題点・課題の洗い出しという点では記述が不足していましたので、文化財保存活用の人材・施設・資金が不足しているという認識を追加記入します。
				目標と共に具体策をまとめて策定すべきである。具体策は「なぜ、だれが、どこで、なにを、どのようにして、いつまでに」を勘案すべきである。	また、本構想案は、地域の「光」である文化財を確実に後世へ伝えていくための考え方や方策について取りまとめたものであり、具体的な内容については、来年度策定予定の「文化財保存活用地域計画」で取りまとめていきます。
3	第4章・46ページ・58ページ	重点《関連文化財群》として、①古代の王と古墳文化、②戦国の城郭・城館と古戦場、③多彩なる伝統芸能・民俗行事、④近世文化の輝き、⑤街道が織り成す交流の文化遺産群、⑥長浜の近代化を創った遺産群、を設定する。	ジャンルには②「戦国の城郭・城館と古戦場」、エリアには①「長浜城と城下町遺構」・③「賤ヶ岳城塞群と古戦場」があるのに、なぜ「小谷城と姉川古戦場」のジャンル・エリアが設定されないのか。	小谷城は1,100～1,200の曲輪からなる全国的にみても稀なる巨大城郭である。さらには、姉川合戦から小谷落城までの一連の流れは、日本の中世を近世へ導くもので、歴史学的にも重要な意味を持つから。	小谷城については、小谷城の支城である山本山城など、浅井氏を攻撃した織田方の城である横山城や虎御前山城、あるいは浅井氏家臣の屋敷である下坂氏館や三田村氏館と関連させ、元亀争乱のストーリーの中で扱った方が、より文化財の保存・活用が行ないやすいと判断して、ジャンル②「戦国の城郭・城館と古戦場」の中に含めました。しかし、ご指摘の通り、現在のジャンル名では、小谷城を中心にストーリーを設定したことが分かりにくいので、「小谷城・姉川古戦場と浅井氏関連史跡」とジャンル名を変更します。
		重点《歴史文化保存活用区域》として、①長浜城と城下町遺構、②奥びわ湖の観音文化と			

		村々の祈り、③賤ヶ岳城塞群と古戦場、④菅浦・竹生島と水辺空間、⑤菅並集落と丹生谷の山村生活、⑥大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化、を設定する。			
4	第4章・52ページ	重点《関連文化財群》として、④近世文化の輝き、を設定する。	「近世文化の輝き」とあるが、「現代」には輝きがないのか。	現代においても偉人を輩出しているから。	長浜市においては、地域において顕彰・研究されている人物の多くが、雨森芳洲や国友一貫齋のように近世（江戸時代）の人物です。今後こういった地域における顕彰・研究活動を支援するという視点から、「近世」に焦点をあてジャンル名を設定したものです。もちろん、近世以外の時代の人物顕彰・研究も支援してまいります。
5	第5章・91ページ	重点《文化財保存活用区域》の内②の「奥びわ湖の観音文化と村々の祈り」の「案内施設」の一つとして、高月田園空間博物館（高月駅観光情報センター）を設定する。	重点《歴史文化保存活用区域》の内、エリア②「奥びわ湖の観音文化と村々の祈り」の案内施設となっている高月田園空間博物館（高月駅観光情報センター）へ、高月支所にある十一面観音像を移設し、上野の KANNON HOUSE のような演出をして欲しい。 また、同施設に駅ピアノ（誰でも弾けるピアノ）をおいて欲しい。観音は音を観ると書くので、親和性と話題性は十分にあると思う。	高月田園空間博物館を観音の里のポータル（入口）として整備し、観光客を出迎え、駅での往来を見守る観音様の堂とすることが、「観音の里」の整備につながると思うから。	貴重なご意見を頂きましたので、今後の重点《歴史文化保存活用区域》の内、エリア②「奥びわ湖の観音文化と村々の祈り」の整備を検討する中で、地元と協議してまいりたいと思います。
6	第6章101ページ	既設の博物館・資料館を、直営施設と、それ以外の地域運営施設に分け、前者は長浜市長浜城歴史博物館、（仮称）小谷城戦国ミュージアム、（仮称）観音の里ミュージアムの3館に集約し、それ以外は地域運営施設とする。	既設の博物館・資料館を、長浜市長浜城歴史博物館、（仮称）小谷城戦国ミュージアム、（仮称）観音の里ミュージアムの3館のみに集約することには反対である。また、浅井歴史民俗資料館において小学校3年生向けに、「あざい歴史の会」の事業として実施している「昔の暮らし体験」を重視し、同館も長浜市直営として運営されることを望む。	小学生にとって、「昔の暮らし体験」を通して、先人の知恵や工夫を知することは、国際化が進む中、我が国の文化の原点、人間性豊かな心を育むものであり、長浜市として力を入れるべきであると考えから。	長浜市の歴史文化施設は、地域団体による自主的な運営を図るため、直営から指定管理や補助金運営に順次切り替えています。これにより、地域の文化財を生かした住民主体の魅力ある地域づくりを進め、その地の文化財を確実に後世へつなげていこうとするものです。指定管理・補助金運営になった場合でも、市民による地域の歴史文化の保存・活用に対する支援は、しっかり行なっていきます。
7	第6章・101ページ	既設の博物館・資料館を、直営施設と、それ以外の地域運営施設に分け、前者は長浜市長浜城歴史博物館、（仮称）小谷城戦国ミュージアム、（仮称）観音	博物館・資料館のあり方を、情報発信基地・文化財の保管場所として位置づけながら、直営施設と地域運営施設に区分することには大きな懸念を感じる。再編後の地域運営施設は、コストカットによる廃	博物館・資料館は、古来から引き継がれてきた文化的資産や、貴重な歴史資料を保管活用・情報発信するためのターミナルとすべきだと考えるから。	地域運営施設は、地域団体による自主的な運営により、地域の文化財を活かした住民主体の魅力ある地域づくりを進めて、その地の文化財を確実に後世へつなげていこうとするものです。現に、地域運営にすることで、地域の皆さんにより愛され、入館者を増やしている施設も多く、閉鎖された施設は一つもありません。

		の里ミュージアムの3館に集約し、それ以外は地域運営施設とする。	止・閉鎖の結論ありきのシナリオが見えてくる。直営3館以外の博物館・資料館も、「外部化等」するのではなく、現行の体制で維持すべきである。		
8	第6章・101ページ	直営の博物館・資料館の一つとして「小谷城戦国体験ミュージアム」を、令和5年度を目処に設置する。	「小谷城戦国体験ミュージアム」とするのはなぜか。	何を「体験」させるのか。	新たに小谷城近くに建設する博物館は、浅井氏や小谷城に関する資料を陳列する施設だけではなく、戦国時代の暮らしや戦いを追体験できる施設として考えているため、「体験」の言葉を館名に取り入れています。
9	第6章・102ページ	文化財の保存・活用に関わる人材を確保・育成する。	文化財の保存・活用に関わる人材を確保するのみでなく、「教化育成」する必要なのではないか。	長浜市学芸員の教育が不十分な面がうかがわれる。	最新の研究成果を共有する研修を行なって、文化財の保存・活用に関わる人材を「育成」していく旨を追記致します。
10	全体		地域創生と連携し、歴史的な蓄積を活用し「地域の誇りの活性化」を行なう。	「東京への憧れ誘導政策」に対抗するため。	ご指摘のとおり、本構想は歴史文化資産を活用して、「地域の誇り」を創生することに目的があります。
11	全体		木之本町古橋の製鉄遺跡を活用する。	古代の製鉄は農具等の加工品を再び鉄に戻して再利用した。このように環境破壊につながらない古代の技術は、現在の環境問題を考える際の参考となるから。	ご提案を参考に、歴史文化資産の調査・研究を進めていきます。
12	全体		己高山の仏教文化遺産の活用を行なうべきである。	湖南の比叡山や三井寺との連携を行ない、聖地巡礼などの企画が可能となるから。	ご提案を参考に、重点《歴史文化保存活用区域》の②「奥びわ湖の観音文化と村々の祈り」、⑥「大吉寺と草野川・姉川流域の仏教文化」の施策を進めてまいります。